

公立大学法人宮崎公立大学  
平成23年度業務実績に関する評価結果

平成24年 8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

## 目次

1	公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法	…	1
2	全体評価	…	2
3	大項目別評価	…	4
4	平成23年度事業年度評価に係る項目別評価結果総括表	…	10

## 1 公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法

「項目別評価」及び「全体評価」により構成する。評価委員会は公立大学法人の作成した実績報告書をもとに、公立大学法人の意見を聴取しながら評価を行う。

なお、教育研究については、その成果が現れるまでには一定の期間を要することから、年度計画の評価は事業の進捗状況の確認等により行う。

### (1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大学法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

### (2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎資料とし、年度計画の大項目(\*)ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

#### \* 大項目

教育研究等の質の向上／業務運営の改善及び効率化／  
財務内容の改善／自己点検・評価及びその情報公開／  
その他の業務運営／予算

S	(秀) 特筆すべき進行状況にある(特に認める場合)
A	(優) 計画どおり(すべてⅢ～Ⅳ)
B	(良) おおむね計画どおり(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	(可) やや遅れている(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	(不可) 重大な改善事項がある(特に認める場合)

### (3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大学法人の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画や中期目標、中期計画を総括する。また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

## 2 全体評価

### (1) 総評

宮崎公立大学は、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできたところである。

法人化5年目に当たる平成23年度の業務実績について、その内容を点検した結果、年度計画を十分には達成していない取組も一部認められたが、課題とした事項の改善に努めるとともに、平成24年度の第1期中期目標期間最終年度を見据え、中期目標・中期計画の達成に向けて全学を挙げて取り組んでいることがうかがえる。

教育研究については、「異文化実習」の参加の促進や、教職課程履修学生に対して、教職支援室の設置及び英語と情報の両方の教員免許取得を推奨するなど、様々な取り組みが見られ、評価できるものである。特に、「異文化実習」の参加者の大幅増は、グローバルな視野をもって活躍できる人材育成に大きく貢献するものである。

学生支援については、就職活動支援として就職支援室の設置、求人情報提供システムの導入、ゼミ担当職員と就職支援室との情報の共有などに取り組んでおり、就職率が平成22年度の90.1%から95.6%に上昇したことは、取り組みの効果が現れたものと考えられる。

地域貢献については、開放授業や定期公開講座等の充実に図り、安定的な応募人数を確保するとともに、受講者の増加につなげたことは、高く評価できるものである。

一方、ハラスメント防止対策については、これまで規程の見直しやガイドラインの作成、学生や教職員への研修会の実施など、様々な取り組みを行ったにもかかわらず、再度発生したことは非常に残念である。新たに設置した外部検証委員会の検証や提言を受け、是正のための取り組みを行っているところだが、二度と発生させないため、具体的な改善策の強力な推進が望まれる。

全体的には、平成23年度の業務実績については、教育、研究、学生支援、地域貢献等の各分野で様々な取り組みを実践し、成果が出ていることから、概ね良好な進捗状況にあると評価できる。

平成24年度は中期目標期間6年間の最終年度となるため、これまでの業務実績の分析を行うとともに、評価結果を踏まえ、中期目標・中期計画の着実な達成を期待する。

また、宮崎公立大学がまもなく開学20周年を迎えることは、地域、市民にとっても大きな喜びである。この節目に合わせ、あらためて個性ある大学づくりに教職員が一体となって取り組み、地域に根ざし、地域に愛され、地域に開かれた大学として、なお一層発展することを強く期待する。

## (2) 今後の課題

- ①ハラスメント防止対策については総評でも触れているが、年度計画の取り組みは順調に実施しているにもかかわらず、再度発生したことは、結果として、これらの対策ではまだ不十分であると言える。今後、二度と発生させないための具体的な改善策を、全学を挙げて取り組むことが必要である。
- ②外部資金の導入については、科学研究費補助金の申請件数及び採択件数を伸ばすために、更なる積極的な取り組みが必要である。また、理事長・学長特別枠研究費（戦略的研究費）についても、外部資金の獲得につながるような活用が成されていないため、運用方法の見直し等が求められる。
- ③地域貢献活動については、開放授業や公開講座などは安定的な実績を得ているものの、民間企業や住民・諸団体等と連携して実施する地域の課題解決や地域の振興に貢献する取り組みについては、まだ不十分であると言える。より積極的に、地域の活性化のために研究するという方向性を出すことが求められる。すでに締結している商工会議所との包括協定等、既存の連携を使った取り組みを検討するなど、更なる工夫を期待したい。

### 3 大項目別評価

#### 3-1 教育研究等の質の向上

##### (1) 評価結果及びその判断理由

###### ア 評価結果

B (おおむね計画どおり)

###### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数97項目に対して、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価した項目が87項目であり、全体に占めるその割合が9割であることから、B評価(おおむね計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
97	14	73	6	4

##### (2) 評価委員会の意見等

###### ア 特筆すべき点

- ・本学の教育の中心である「質の高い専門性に基ついた総合的な教養教育」の実践的な部分を構成するチェックリスト・システムPACSの活用が、担当職員間の日常的な合意形成の努力によって、より確かなものとなってきていることは高く評価したい。

###### 【チェックリスト・システムPACSの構築と実施】

- ・グローバル化時代を生きる若者には多文化理解とその受容が求められるが、そのためには海外研修は大きな意味がある。参加者が大幅に増えたことは、高く評価できる。

###### 【「異文化実習」の参加の促進】

- ・教職支援室設置及び英語と情報の両方の教員免許取得を推奨したことは評価できる。カリキュラム上、両方の免許取得が可能であれば、教員として活躍する場が増える。

###### 【教職課程履修学生の支援】

- ・求人情報提供システムの導入とキャリアアドバイザーの就職相談体制の実施は、就職活動支援という観点から評価できる。

###### 【就職活動支援室の連携強化】

- ・1、2年次から学生に対して、就職に関心を持たせるための具体的な実践をしていることは評価したい。

###### 【進路支援活動とキャリア教育との連携強化】

- ・講座の参加者が増加していることは、講座が広く住民に受け入れられ、かつ、人気が高いことを物語っている。  
【地域住民の要望に基づいた定期公開講座を始めとする各講座の充実】
- ・研究成果の発表会の実施は、地域貢献という点から高く評価できる。  
【研究成果の活用方法の検討】

## イ 遅れている点

- ・ハラスメント対策への取組を行っているにもかかわらず、それでも発生するのは、発生しないような対策が十分ではないのではないか。例えば、教員の研究室に学生一人が入るときには、必ずドアを開けておく等の具体的な予防策のルール化が必要なのではないか。  
【ハラスメント防止への組織的取組及びハラスメント防止の啓発・研修の実施】
- ・ハラスメント対策として、処分の厳格化等を行う必要があるのではないか。  
【ハラスメント防止への組織的取組及びハラスメント防止の啓発・研修の実施】
- ・理事長・学長特別枠研究費（戦略的研究費）について、外部資金の獲得につながっていないのは残念である。  
【科学研究費補助金申請件数増加のための組織的取組】
- ・ビジネス支援及び起業家支援について、事業としては実施困難であるとのことだが、大学と商工会議所は包括協定を結んでいるのだから、商工会議所の創業塾などをうまく利活用してはどうか。就職だけでなく起業という方向性も大事なので、そうした点も含めて検討してほしい。  
【ビジネス支援及び起業家支援の検討】
- ・より積極的に、地域の活性化のために研究するという方向性を出すべきではないか。継続して検討してほしい。  
【中心市街地再生の取組に関する研究】

## ウ その他の意見等

- ・テレビ会議システム等を利用した「グローバル教育プログラム」については、費用対効果等の理由から導入しないという結果となったが、グローバル化時代を担う人材育成のための教育プログラムの検討は、引き続き必要ではないか。  
【グローバル教育プログラムの検討】
- ・蘇州大学との半年交換留学制度新設は評価できる。さらに、留学生のインターンシップは、日本の職場体験や異文化理解がより具体的なものになるので、是非実施してほしい。また、蔚山科学大学からの編入制度については、双方の学生にとって貴重な異文化理解の機会になるので、早急に実現してほしい。  
【学術交流協定校の拡充の検討】

- ・海外の協定大学との間で単位認定し、「単位互換」できると、さらに魅力ある協定となる。4年在学中に単位互換が可能であれば、さらに多くの学生が挑戦する可能性があるのではないかな。

**【学術交流協定校の拡充の検討】**

- ・ハラスメントが起きたことを重く受け止めなければならない一方で、これまでの人権教育・ハラスメント啓発によって学生・職員が人権侵害としてのハラスメントの傾向に気づき、申し出ることができた環境は評価したい。

**【ハラスメント防止への組織的取組及びハラスメント防止の啓発・研修の実施】**

- ・危機管理基本マニュアル等が策定され、今後は模擬訓練等の実施も必要ではないかな。

**【危機管理ガイドラインの作成及び緊急時対応マニュアル等の見直し】**

- ・進路支援においては、ゼミの教員と企業との関わり合いを強くする必要があるのでないかな。

**【教職員の情報の共有化】**

- ・女子学生が多いことから、例えば女性の起業・提案・支援などはおもしろいテーマとなるのではないかな。女子学生が多いという特性を生かしたポジティブな発想で検討してほしい。

**【ビジネス支援及び起業家支援の検討】**

- ・宮崎にも国際協力ネットワークがあり、研究対象としても、また連携組織としても、地域と海外に貢献できる可能性が大きい。JICAの地域提案型など大学に見合った委託事業もある。

**【行政やNPO主体の国際交流活動の研究】**

### 3-2 業務運営の改善及び効率化

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

A (計画どおり)

##### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数7項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
7	3	4	0	0



(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

- ・特になし。

3-3 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数9項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を順調に実施している (III評価)」と評価したことから、A評価 (計画どおり) とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	IV	III	II	I
9	1	8	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

- ・特になし。

### 3-4 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

A（計画どおり）

##### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数4項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
4	0	4	0	0

#### (2) 評価委員会の意見等

##### ア 特筆すべき点

・特になし。

##### イ 遅れている点

・特になし。

##### ウ その他の意見等

・特になし。

### 3-5 その他業務運営

#### (1) 評価結果及びその判断理由

##### ア 評価結果

A（計画どおり）

##### イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数6項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
6	0	6	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

- ・特になし。

#### 4 平成23年度事業年度評価に係る項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目)	項目数	項目別内訳(評価)				項目別構成割合				計	平均値	備考
		4	3	2	1	評価4	評価3	評価2	評価1			
		第2 教育研究等の質の向上に関する目標	97	14	73	6	4	15%	75%			
1 教育に関する目標	64	10	48	6	0	16%	75%	9%	0%	196	3.06	
(1) 教育内容と方法に関する目標	19	2	12	5	0	11%	63%	26%	0%	54	2.84	■評価4: No.18,19 ■評価2: No.4,5,6,7,10
(2) 教育支援体制に関する目標	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00	
(3) 学生支援に関する目標	21	4	16	1	0	19%	76%	5%	0%	66	3.14	■評価4: No.29,34,45,47 ■評価2: No.38
(4) 学生の確保に関する目標	15	4	11	0	0	27%	73%	0%	0%	49	3.27	■評価4: No.58,59,61,64
2 研究に関する目標	15	2	13	0	0	13%	87%	0%	0%	47	3.13	
(1) 研究の方向と水準の向上に関する目標	6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00	
(2) 研究体制等の整備に関する目標	9	2	7	0	0	22%	78%	0%	0%	29	3.22	■評価4: No.76,79
3 地域貢献に関する目標	17	2	11	0	4	12%	64%	0%	24%	45	2.65	
(1) 教育研究成果の地域への還元に関する目標	14	2	10	0	2	14%	72%	0%	14%	40	2.86	■評価4: No.80,81
(2) 地域の国際化及び国際理解に関する目標	3	0	1	0	2	0%	33%	0%	67%	5	1.67	
4 魅力ある大学づくりに関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	7	3	4	0	0	43%	57%	0%	0%	24	3.43	
1 組織運営の改善に関する目標	4	3	1	0	0	75%	25%	0%	0%	15	3.75	
(1) 機動的な運営体制の確立	2	1	1	0	0	50%	50%	0%	0%	7	3.50	■評価4: No.98
(2) 予算の戦略的で効率的な活用	1	1	0	0	0	100%	0%	0%	0%	4	4.00	■評価4: No.100
(3) 外部意見の積極的な活用	1	1	0	0	0	100%	0%	0%	0%	4	4.00	■評価4: No.101
2 人事の適正化に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(1) 法人化のメリットを生かした人事制度の構築	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(2) 人事評価制度の確立	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0	0.00	
第4 財務内容の改善に関する目標	9	1	8	0	0	11%	89%	0%	0%	28	3.11	
1 自己収入の増加に関する目標	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00	
2 経費の抑制に関する目標	3	1	2	0	0	33%	67%	0%	0%	10	3.33	■評価4: No.111
3 資産の運用管理の改善に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第5 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
1 自己点検・評価に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
第6 その他業務運営に関する重要目標	6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
2 安全管理に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
3 情報公開の推進に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
4 人権に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
合計	123	18	95	6	4	14.6%	77.2%	4.9%	3.3%	373	3.03	